編集後記

From Editor

前季号の特集は「木」で、今季号は「火」だ。元素ではないにしても、まるでテーマが「基本的な要素」風のものに還元されていくようだ。

「木」と「火」といえば、今なら、去年一〇月下旬から一一月上旬にかけて、三〇ヘクタールの山林を焼き尽くした史上？最大級の米国カリフォルニア州南部の火災が思い浮かぶ。しかし、なにもそんな超弩級の火を持ち出さなくても、「火」についてなら、いろいろ思いを巡らせるのに苦労はない。

フランスの（詩魂あふれる）科学哲学者 G・バシュラールは、詩人の想念と化学反応を起こすが如く詩人の想像力を刺激する「元素」として、火、水、空気、大地の四つを取り上げ、それぞれと詩的想像力との関係について、主として過去の文学作品（詩、小説）を資料として使いながら詳細に論じた作品を残している。

火については、主に『火の精神分析』（初期の作品）や『蝋燭の焔』（末期の作品）の中で論じており、〝火は、「（有史以前の）原初の世界への回帰」や「天（や大地！）に向かっての上昇」などについて強いイメージを喚起する〟という。また、〝火による浄化〟に代表される良いイメージの対蹠に、〝地獄の劫火〟に代表される悪いイメージも併せ持ち、イメージの自己矛盾を平気で抱え込む力があるらしい。

タイ・バンコクのエラワン祠にて

そんな火のイメージやイメージ喚起力が、また、多くの宗教者にとりあげられ、宗教儀式に火がよく使われる理由でもあるだろう。典型は、ゾロアスターその人およびゾロアスター教（拝火教）ということになるが、ゾロアスター教の影響を強く受けた、というより混交したといえるローマ帝政期に流行したミトラ教（ミトラス教）、そのすぐ後を継ぐように隆盛し、唯一宗祖自らが書いた経典を持つマニ教などは、儀式によく火を使う宗教の中に容易に数えることができる。それらとの激しい教義論争を経て、今日の地位を築いたキリスト教も儀式に数多くのローソクを使う。仏教も同様である。単に照明のためのみとは思えない。

宗教的観想には、ローソクの炎がよいのではないか。ローソクの炎が、あまりに時代遅れなら、暖炉の炎の前で瞑想にふけるのも贅沢で有意義な時間のすごし方だろう。暖炉の火を見つめて、空想の翼を広げてみてはどうか。子どもの想像力を涵養するのに最適ではないか。情操教育にもよかろう。ひょっとしたら、その子は、バシュラールのような優れた哲学者になれるかも知れぬ。——桜井律郎

表紙写真　［中　央］薪ストーブが燃える室内には、柔らかな暖かさが漂う（兵庫県三田市）　［右　上］古都奈良の新年を飾る若草山の山焼き
［下段左］大晦日の夜に新年を迎えるための浄火をもらう、京都 八坂神社のおけら詣り　［下段右］ガス燈が街路に映える神戸ハーバーウォーク
裏表紙写真　［上段左２点］豊中市服部緑地公園にある日本民家集落博物館、「煙が目にしみる博物館」として環境教育の面でもユニークな展開を試みる
［上段右］京都の大文字山、五山送り火の火床から市街を望む　［中段右］強い火力が決め手の中華料理
［下段左］古いお札や注連縄を焼く、京都 吉田神社の火炉祭　［下段右］大阪 一心寺にて、参拝者が献じたお灯明

＜おわびと訂正＞
本誌 67号に掲載しました内容に誤りがありました。以下のように訂正するとともに、筆者ならびに読者の皆様に深くおわび申し上げます。
P14 小山修三氏プロフィール２行目：同大学大学院文学研究科（誤）→ 國學院大學大学院文学研究科（正）
P78 上段前から８行目：「野田阪神」駅（誤）→「野田」駅（正）、コラム「野田藤」上から３行目：JR野田阪神（誤）→ JR野田（正）

CEL 68号　特集●「火」の創造力　発行●平成 16年３月 26日　頒価 1,000円（送料 290円）
●発　行　大阪ガス エネルギー・文化研究所　〒541-0051　大阪市中央区備後町３-６-14　アーバネックス備後町ビル４F
●発行人　真名子敦司 *Atsushi Manago*
●編集人　桜井律郎 *Ritsuo Sakurai*　弘本由香里 *Yukari Hiromoto*
編集●関西ビジネスインフォメーション（株）内　CEL編集室　印刷・製本●土山印刷株式会社
〒541-0051　大阪市中央区備後町３-４-９　輸出繊維会館７F　TEL.06-6228-3315
RESEARCH INSTITUTE FOR CULTURE, ENERGY & LIFE ©2004 OSAKA GAS CO.,LTD
禁無断転載複写
※本誌掲載の寄稿文、インタビュー、レポートなどの内容は必ずしも小社の見解を表すものではありません。
本誌・バックナンバーのコンテンツや当研究所の活動内容はインターネットホームページ〔http://www.osakagas.co.jp/cel/〕でご覧いただけます。
本誌に関するお問い合わせ、ならびにご購読申し込みや送付先変更等のご連絡は　CEL編集室　Tel.06-6228-3315 Fax.06-6228-3302 cel@kbicom.net まで